

一、傍線部を口語訳せよ。

1 命婦は、まだ大殿ごもらせたまはざりけると、あはれに見たてまつる。(源氏物語)

2 別の子細さうらはらず。(平家物語)

3 いづれの御時おほんときにか、女御にようご、更衣かういあまたさぶらひたまひける中に、(源氏物語)

4 まかでて聞けば、あやしき家の、見所みどころもなき梅の木などには、かしがましきまでぞ鳴く。(枕草子)

二、傍線部の敬語の種類を、次のア〜ウから選べ。

ア・尊敬語 イ・謙讓語 ウ・丁寧語

1 御乳母めのとなどをつかはしつつありさまを聞きこしめす。(源氏物語)

2 かかる雨なればくちをしとなげかせ給たまふ。(落窪物語)

3 大納言さんみ、三位中将、松君まつみ率ひて参まゐり給たまへり。(枕草子)

4 薩摩守忠度さつまのかみただのりは、いづくよりや帰かえられたりけん、(平家物語)

5 身をすてて、額ぬかをつき祈いのり申まをすほどに、(更級日記)

三、傍線部の敬語の種類を、次のア〜ウから選べ。

ア・尊敬語 イ・謙讓語 ウ・丁寧語

1 かぐや姫「もの知らぬこと、なのたまひぞ。」とて、いみじく静かに、おほやけに御文あ奉たまり給たまふ。(竹取物語)

2 「(宣耀殿ノ女御ニ)父大臣の教へ、聞きこえ給たまひけることは、」(枕草子)

四、傍線部の敬語が、誰に対する敬意を表しているか答えよ。

1 「くらもちの皇子みこは優曇華うでんげの花持ちて上のほりたまへり。」とののしりけり。(竹取物語)

2 少将(俊寛ニ)「まことにさこそは、おほしめされ候まをふらめ。」(平家物語)

3 (帝ハ)一の宮を見奉たまらせ給たまふにも、若宮の御恋おんこいしさのみ思おもほし出いでつつ、(源氏物語)

4 淑景舎、東宮に<sup>a</sup>参り<sup>b</sup>給ふほどのことなど、いかがめでたからぬことなし。(枕草子)

a

〔

b

〕

〔

五、次の文中の傍線部の敬語の種類を答えよ。

1 人の心劣れりとは思ひは<sup>a</sup>べらず。(徒然草)

〔

〕

六、次の文中の「給へ」について、後の問いに答えよ。

1 さぞあさましきやうにおぼしつらんといとほしくて、「夜<sup>よ</sup>とともに物おもふ人は夜<sup>よる</sup>とてもうちとけて目のあふ時もなし めづらかにもおもう給へず」ときこえつ。(和泉式部日記)

① 文法的説明として適切なものを、次から選び記号で答えよ。

〈ア〉四段活用の動詞 イ、下二段活用の動詞 ウ、四段活用の補助動詞 エ、下二段活用の補助動

詞〉

② 敬語の種類を答えよ。

〔

〕

七、次の文中の傍線部「たてまつる」は、尊敬、謙譲のどちらか。

1 (句宮へ) それよりぞ御馬にはたてまつりける。(源氏物語)

〔

〕

2 御送りの人々見奉り<sup>a</sup>送りて帰りぬ。(竹取物語)

〔

〕

八、次の文中の傍線部「まゐる」は、尊敬、謙譲のどちらか。

1 親王にむまの頭、大御酒<sup>a</sup>まゐる。(伊勢物語)

〔

〕

4 3 2 1 一  
おやすみになっていらっしやらなかったことよ  
ごさいません  
お仕えしておられた中に  
退出して聞くと

5 4 3 2 1 二  
イ ア イ ア ア

2 1 三  
a a  
イ イ  
b b  
ア ア

4 3 2 1 四  
a a a くらもちの皇子  
俊寛 b 俊寛  
一の宮 b 帝  
東宮 b 淑景舍

1 五  
丁寧語

1 六  
エ  
謙譲語

2 1 七  
謙譲 尊敬

1 八  
謙譲